

世代を超えて 学ぶ!楽しむ! 秋のイベント報告!

猛暑が落ち着きを見せ始め、過ごしやすくなる季節、地域では運動会やふれあいまつり、防災訓練など、様々な行事が行われます。

そんなイベントの秋、京都市景観・まちづくりセンター（以下「まちセン」）でも通常のセミナーだけでなく、まちあるき講座や他団体との合同企画・後援事業など、様々なイベントを開催・協力しています。10月にまちセンで開催されたイベントを紹介します。

子どもと一緒に! すまいとまちフェスタ

- 開催日時：令和5年10月22日(日) 12時～16時
- 企画・運営：京都市住宅供給公社 京安心すまいセンター^{みやこ}（公財）京都市景観・まちづくりセンター
- 主催：京都市
- 協力：一般社団法人京都府建築士事務所協会

10月は住生活月間。令和4年6月に、京安心すまいセンターがひと・まち交流館 京都地下1階、まちセンの隣に移転後、まちづくりと住情報を扱う2つのセンターで、初の合同イベントを開催しました。

ハギレではたきづくり ～エコなすまいとエコなお掃除

まちセンの企画は、手づくり暮らし研究家の美濃羽まゆみさんを講師に、ハギレを活用したはたきづくりのワークショップを開催しました。町家暮らしをされている講師の美濃羽さんから、暮らしを快適でサステナブルなものにする工夫が紹介された後、色とりどりのハギレを選んでのはたきづくりを体験しました。参加した子どもたちも、自分の作ったはたきでタンスなど家具のお掃除を楽しみながら、手づくりした物への愛着を深めていました。（タンスの協力：特定非営利活動法人 古材文化の会）



世界で一つのおうちバコを作ろう!

おうちバコのキットを組み立て、好きな飾り付けで世界に一つだけのマイホームづくりにチャレンジ! 完成したおうちバコを、京のまちかどコーナーの巨大地図に配置して、自分が住みたいまちづくり。みんなで記念撮影をしました。



楽しくDIY! 漆喰塗り体験

説明を受けながら、初心者でも簡単にできる漆喰塗りを体験。漆喰の柔らかな質感と、自然素材ならではの心地良さが感じられました。（協力：日本プラスター株式会社）



地域まちづくりセミナー まちあるき連続講座

私の見方、あなたの見方、みんなの見方

～まちあるきを通してまちの見方を学ぶ～



● 開催日程：10月28日(土)・29日(日)

地域まちづくりセミナーは、私たちのまちを取り巻く今日的な課題や地域ごとのまちづくりに対して、座学やまちあるきを通して課題解決の糸口を探ったり、活動を進めるためのノウハウを共有し、これからのまちづくりの実践に役立てる事を目的にしています。

今回は、一般社団法人マチノミカタの皆さんと合同で、まちあるきとワークによる2日間の連続講座を開催しました。

1日目は、まちづくりの事例紹介や、まちの特性を把握するための調査方法、まちあるきの進め方等のオリエンテーションの後、3グループに分かれ、まちセンの立地する菊浜学区のまちあるきを行いました。まちあるきでは、地元のお店にも立ち寄りお話を伺うなど、様々な感性を働かせながらまちの情報を確認し、まちあるき終了後に振り返りを行いました。

2日目は、菊浜まちづくり推進委員会の竹田会長、菊浜高瀬川保勝会の上村会長にインタビューを行い、地域の現状や課題、将来像などを伺いました。その後、前日のまちあるきでの気づきや、両会長のインタビューから知った情報などを元に、各グループでくじ引きしたミッションに対して、地域の魅力向上や課題解決のための企画ワークと発表を行いました。

受講された皆さんが、この講座での体験を通じて、今後、ご自身の地域や様々なフィールドでまちづくり活動を進めていかれることを期待しています。



参加者の皆さんからの感想(一部)

- まちの見方や感じ方は人それぞれで、他の参加者の視点が自分と違うことが参考になった。
- ヨソ者目線でまちを見ると、地域で弱み(課題)とされていることが、強みに転化するという可能性に面白さを感じられた。
- まちの魅力や課題は、データを情報収集するだけでなく、実際に歩いてみないと分からないことがたくさんあることに気が付いた。

マチノミカタの皆さんから

私たちは、地域でまちづくり活動を行うときには、様々な手法で得た情報を構造化してまちの特性を把握すること、また、多様な人々の視点を取り入れて企画を考えることが重要だと考えています。今回のプログラムでは、まちづくり活動を企画するための一連の流れや基礎的な考え方を学びながら、複眼的にまちを見る目を養うための工夫を随所に取り入れました。ここで学んだことを活かし、一人ひとりが豊かに暮らせるまちのために行動する人が増えることを願っています。なお、本講座でフィールドにさせていただいた菊浜学区の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。（吉田泰基・白水育世・小林明音）

今後のセミナー・イベントへの皆様のご参加をお待ちしています。

☕ ベースメンタルカフェ

まちセン交流サロンで毎月1回だけ出現する幻のカフェThe Base-Mental Café。オープン1周年を迎えた2023年10月6日(金)には、特別ゲストとして二胡奏者の尾辻優衣子さんにお越しいただき、60名を超える過去最多のお客様に、癒しの音色をプレゼントしていただきました。

The Base-Mental Caféは、地下の部屋(Basement)で出店するカフェであると同時に、深い根っこのある(Base)精神(Mental)のようなもので、人と人とが繋がったらいのの思いで設けている場でもあります。まちセン専務理事オリジナルブレンドの本格コーヒーはじめ、すべてのドリンクをワンコイン100円で提供させていただいておりますので、どうぞふらっと、思わぬ方との相席のお喋りを楽しみにおいでください。



全国路地サミット in 京都(後援)

● 開催日程：令和5年10月7日(土)～9日(月・祝)

全国路地サミットは、日本全国における路地まちづくりの取組に関する情報交換の場として、また、連携していく仲間をはぐくむ交流の場として平成15(2003)年から全国各地で開催されています。まちセンでは、今回で18回目、京都で初開催となる全国路地サミットin京都に後援しました。

10月7日にひと・まち交流館 京都の大会議室で行われたシンポジウムでは、路地に親しみ、開かれた使い方などについて、報告が行われました。また、10月7日～9日に市内8コースで路地まち歩きを実施し、延べ100名の方が歴史都市京都の路地空間を体感しました。

交流会では、シンポジウムで話題になった様々な取組等をさらに深く知るため、資料展示のほかに、来場者と顔を合わせて交流する機会が設けられました。京都内外の団体による路地まちづくりの取組を紹介したリーフレットや、動画・模型などがブースに展示され、参加者同士で積極的な談議に花を咲かせていました。



京町家等継承ネット

京町家等継承ネットでは、様々なご相談にその場で専門家が
お答えする「京町家・空き家なんでも相談会」を開催しました。

京町家・空き家なんでも相談会を開催しました



写真1 相談会会場となった元成徳中学校
（京都市立下京中学校成徳学舎）全景



写真2 相談会の様子



写真3 まちセンにて月一で開催している「The Base-
Mental Café」も、相談会会場に出張しました。



約3年半ぶりの開催

京町家等継承ネットは、平成26年の設立以来「京町家相談会」を開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、令和2年の2月以降開催を控えてきました。

今回は、秋晴れの空の下、約3年半ぶりに「京町家・空き家なんでも相談会」を中京区の元成徳中学校にて開催いたしました。また、相談会開催をお知らせするため、京都市のご協力により、個別指定京町家や京町家保全・継承地区の京町家に、相談会のご案内をポスティングさせていただきました。

京町家・空き家なんでも相談会

対 象：京町家の所有者・居住者、京町家の購入・入居希望者
主 催：京町家等継承ネット、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター
後 援：京都市
開催日時：令和5年10月13日（金）、14日（土）2日間 午後1時～午後4時30分
会 場：元成徳中学校（京都市立下京中学校成徳学舎）2階会議室
（京都市下京区繁昌町290（高辻通室町西入））
相談件数：（2日間） 専門相談（要事前予約）22件、一般相談（予約不要）13件
相談員一覧（順不同、敬称略） 井上信行、岩佐英治、岩本純一、岡本秀巳、西村孝平、山下善彦、吉田光一、田中和彦、若山正治、小野敏明、狩野文博、木村紀晃、田原利晃、栗山裕子、齋藤義憲、伏木道雄、清原正人、米沢和也、前岡 照紀、小倉さやか、宮田真悟、小町崇幸、玉村匡、中出威一郎、浅井健、川嶋清隆、真田聡、高野祥子

きめ細やかな相談対応

寄せられたご相談に多彩な専門分野の知識を持った相談員がお答えするべく、会場には京町家に造詣の深い専門家（宅地建物取引士、大工、建築士、税理士、不動産鑑定士、弁護士、司法書士、金融機関等）がお待ちし、じっくりと相談者のお話を伺いながら、専門的な見地からの助言や情報提供などを行いました。相談会終了後も必要に応じて継続的に相談対応を行い、相談者の皆さんに寄り添い続けます。

相談者の皆さんの声

参加者からは、空き家になった京町家を活用したい、改修して快適に暮らしたい、近隣の環境が大きく変わった、京町家を適切な形で次の担い手に継承したい、建物指定や補助金に関心がある、といった相談が寄せられました。京町家の規模や立地、相談者の背景や事情によりお答えする内容は様々ですが、相談員の皆さんは、これまでの知識と経験を生かして助言しました。相談者の皆さんからは、「問題が整理され、検討を始めるきっかけになった」、「どういった専門家に相談すればよいのかがあった」、「動き出す方向性が見えてきた」といった前向きな感想をお寄せいただきました。

寄せられたご相談の一例をご紹介します。半年前まで居住していた個別指定を受けている京町家が空き家となり、売却を検討しているので適切な手続きについて助言を受けたい、というご相談について、宅地建物取引士の相談員が対応し、相談会の数日後には、さらに具体的な助言を行うため、まちセンの「京町家なんでも相談」の一環として京町家の現地での相談対応を併せて行いました。



まちセンでは京町家に関するあらゆる相談を常時受け付けています。相談会と同様、ご相談は無料、秘密厳守で、業者からの営業などの心配もありません。安心してご相談ください。

地域まちづくり うれしいご報告 祝

まちセンが専門家派遣やまちづくり相談等の支援に関わる2つの地域で、防災まちづくりに対する取組が認められ、防災功労者の表彰を受けられました。

また、右京区の嵯峨鳥居本地区では、新たに地域景観づくり協議会が設立され、京都市から認定されました。たゆまぬ前進を続ける各地域の取組をご紹介します。

先斗町まちづくり協議会が「防災功労者 内閣総理大臣表彰」受賞！

令和5年9月、先斗町まちづくり協議会が、「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞されました。平成23年に設立された同協議会は、これまで看板の自主改善や無電柱化を進め、現在は鴨川沿岸の夜の景観づくりにも取り組まれています。（京まち工房97号・102号で紹介）

平成28年7月に発生し、6棟を焼失した火災を教訓に、同協議会では地域における防火・防災対策をより強固なものとするため、地域団体や店舗が、消防・警察等の行政と連携して防火啓発活動や消防訓練を実施し、火災から7年を経た現在も活発な活動を継続されています。

町並みの保全と防災を一体的に考え、従前の枠組みに捉らわれない官民が連携した防火・防災活動を推進してきたことが「防災思想の普及」として認められ、今回の表彰につながりました。

これまでも様々な取組が評価されてきた同協議会ですが、これから多様な主体が協働し、先斗町地域だけにとどまらず、京都の魅力や価値向上を目指した新たなまちづくりが展開されていくことでしょう。

まちセンは引き続き先斗町まちづくり協議会の取組を応援してまいります。この度はおめでとうございます！



これまでの受賞歴

令和元年度 総務省 第24回防災まちづくり大賞（日本防火・防災協会長賞）
令和4年度 国土交通省 都市景観大賞 都市空間部門優秀賞
令和5年度 第57回 日本サインデザイン特別賞・公益財団法人日本デザイン振興会会長賞
令和5年 防災功労者内閣総理大臣表彰



神戸啓氏（後列中央）
前列右は岸田首相。
（写真提供：内閣府）

協議会副会長 兼
事務局長：

かんべ あきら
神戸 啓 さんから

新景観政策を軸に、景観整備を目的とした京都の景観まちづくりのように、規制を中心として進めるだけでは、まちの活力やまちづくりの継続力がなくなってしまうと考えています。その中であって、先斗町まちづくり協議会では、規制だけにとどまらない新しいまちづくりの概念である「空間まちづくり」を見出し、新たなまちづくり・町並み保全を推進してきていることが、今回の防災功労者内閣総理大臣表彰や、昨年度の都市景観大賞優秀賞受賞につながったと思います。

今回の表彰は、大変光栄なことですが、それに満足することなく、先斗町まちづくり協議会は引き続き新たなまちづくりを切り拓いていきたいと思っています。ご支援、ご協力よろしくお願いします。

有隣学区自主防災会が「防災功労者 防災担当大臣表彰」受賞！

有隣学区自主防災会が、「防災功労者防災担当大臣表彰」を受賞されました。同会では、「防災まちづくりマップ」の作成・配布や、「有隣学区防災まちづくり計画」を策定し、災害時の備えや避難方法等、具体的な取組を示すなどの活動を行ってこられました。また、11月12日に行われた有隣学区総合防災訓練では、J:COMチャンネル「こちらJ:COM安心安全課」の取材を受けられました。この動画は右記二次元コードより、YouTubeにてご視聴になれます。ぜひご覧ください。

改めて受賞をお祝い申し上げますとともに、まちセンはこれからも有隣学区のまちづくり活動を応援してまいります。この度はおめでとうございます！



鳥居本町景観まちづくり協議会が地域景観づくり協議会の認定を受けました。



五山送り火の「鳥居形」が灯される曼荼羅山のふもと、右京区嵯峨鳥居本町自治会区域を対象とする「鳥居本町景観まちづくり協議会」が、16番目となる地域景観づくり協議会として京都市から認定されました。

今後、協議会の区域内で新たな建築行為等を行う場合、早い段階での意見交換が義務付けられます。

協議会の活動は始まったばかり。まちセンはこれからの取組をサポートしながら、京まち工房で活動を報告をしていく予定です。今後の取組を、乞うご期待！

「古民家の保存・活用」を実践する

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介します。

今回は
この方!



とくみつ と き こ
徳光 都妃子 氏

「醍醐の歴史と暮らしを学ぶ会」「山田家活用フォーラム」主宰
伏見区の醍醐寺近隣に所在し、京都市の景観重要建造物でもある「旧醍醐寺境内史跡 山田家庭園」で古民家の保存・活用活動を行っています。

2級建築士、京都市文化財マネージャー、令和5年度 京町家カルテ調査員
特定非営利活動(NPO)法人古材文化の会、特定非営利活動(NPO)法人京都景観フォーラム 所属

伝統建築物と関わるきっかけ

東山区の町家で育ち、古民家には元々馴染みがありました。が、両親の新興住宅地への転居により改めて、町家がよく考えられたつくりであることを実感しました。京都の町家が失われつつあることが問題として顕在化していたこともあり、自分も積極的に関わりたいと考え、ボランティア団体での活動、京都市文化財マネージャー育成講座の受講と建物との関わりを広げていきました。

醍醐の山田邸との出会い

縁あって醍醐に住まうことになったのですが、たまたま散歩をした際に通りかかった山田邸周辺のまるで時間が止まったかのような景色に衝撃を覚えました。山田家は醍醐寺の寺侍を務めた由緒ある家柄で、屋敷もりっぱな塀や門を持っています。当時は門から中を伺う程度でした。

屋敷の所有者の山田様とご縁ができたのは、当時、古材文化の会が開催していた「伝統建築・保存活用マネージャー上級講座」のレポートテーマに山田邸を取り上げたいと希望したところ、講師や古材文化の会の方々の繋がりで実際に調査できる機会をいただけたからです。

レポートが完成した後も所有者が遠方に住み、空き家となっている山田邸のことが気に掛かり約10年間、年末年始や台風後の様子など、折に触れて連絡をとる関係が続きました。

「旧醍醐寺境内史跡 山田家庭園」運営開始

地域の女性が開いていたコミュニティカフェがこの近所がありました。子供食堂や放課後の勉強スペース提供、多世代交流、カルチャー講座といったものの場になっていたのですが、そこに私は令和2年10月から「古民家相談所」を開きました。

残念ながら先のコロナ禍の中で、コミュニティカフェが活動停止となり、私の「古民家相談所」も一旦閉鎖になりました。

そういう時に山田様から屋敷利用のお声掛けをいただいたのです。令和4年4月から「旧醍醐寺境内史跡 山田家庭園」として屋敷の活用を開始するとともに、ここで「古民家維持活用相談」を行っています。

これからの活動への思い

現在は以前に地域のコミュニティカフェで知り合った、豊富なネットワークを持つ加藤哲司さんがスタッフとして加わって運営企画の一端を担ってくださり、二人三脚で運営をしています。

木・金・土曜日の10時～16時に、地域のコミュニティスペースやアーティスト等の活動の場としてコンサート、朗読会、ギャラリー、カルチャー教室などに利用していただいています。

運営維持のために補助金への応募を検討していますが、将来的な目標は「旧醍醐寺境内史跡 山田家庭園」の利用料で自立した運営ができることです。

醍醐寺周辺は京都市中心部のように多くの人が訪れる地域ではありません。今後もゆったりとした落ち着く空間として、口コミレベルで利用が広がればと思っています。



徳光都妃子氏(右)と加藤哲司氏(左)
山田家の庭園をバックに

旧醍醐寺境内 山田家庭園



Instagram



ホームページ

私と京都



～京都は私を教育する～

てらだ としのり
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター 理事 **寺田 敏紀 氏**

私が初めて京都と出会ったのは小学校5年生の時の家族旅行であり、以来、京都は歴史・文化の蓄積した地として私のあこがれの対象として存在し続けることとなる。大学受験では当然、京都の大学を受験し見事に失敗するが、首尾よく浪人生活を京都で送ることになる。同じ境遇の幼馴染の下宿を行ったり来たりして夜を徹して話し込んだり、バイトをしたり、浪人生とも思えない生活の結果は、再度の失敗で、やむなく東京の大学に進学する。

東京の大学生生活も京都を中心に回り、月に一度、1週間程度は京都に滞在し、フォークやロック等の若者文化の発信地であった京都での疑似生活を満喫していた。その間、改めて京都という都市について認識を深めることとなる。

大都市京都の真ん中を鴨川の清流が流れ、三山に囲まれ自然が身近にある。夜明けの東山をみると、「春はあけぼの…」枕草子の世界が広がっている。イケズといわれている京都人だが、実は合理的で、困っている人や頑張る人には惜しまず応援する。夕暮れ時から鴨川の河原に恋人たちが等間隔に座っている。ジャズ喫茶に黒い袈

裟姿の修行僧が裾を翻して現れる。町を歩く人のスピードがゆっくりしている。大都市にもかかわらず、都心に高層建築が極端に少ない。歩いて楽しい町である。そして、周りの情報に振り回されることなく、自らの暮らしの文化に培われた生活規範から物事を判断している京都人。とりわけ女性がしっかりと家を支えていること。日本のどこにも、このような都市は存在しない。

大学院で京都に。研究室では議論によって対立を止揚する(アウフヘーベン)ことを学ぶ。そして京都市役所に奉職し、京都の女性と結婚する。それからが、さらなる教育の始まりとなった。京都での生活規範をさらに叩き込まれることになる。他者とのお付き合いの仕方、お茶やお花の基礎的素養とその意味するところ。立ち居、振る舞い等々であり、今日まで続いている。社会人としては、しっかりとした理論武装の上で、多様な物事や人を受け入れる大切さ。町家は未来住宅であること。真剣に向き合えば応えてくれる同輩、先達に多くを学ぶ。

今でも京都の光を観ている最中にあり、京都に教えられる日々を過ごしている。そんな私の大好きな京都は、北大路橋から北山を望む風景である。

表紙イラスト作者

アトリエ TAM **山口 珠瑛** (やまぐち たまえ)

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。母の実家が仏光寺の近くの町家で、小さな頃よく町家で遊ぶ。「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。ユーチューブで京の生活を発信中。「ふくめ京暮らし」で検索してくださいませ～

空也踊躍念仏(くうやゆやくねんぶつ)
12月13日(水)～31日(日)に
六波羅蜜寺で行われる空也踊躍念仏。
(※31日は非公開のため、参加不可。)
800年前から続くお念仏やねんて～
年末に一年の反省を込めて行うお念仏で
「罪業消滅(ざいごうしょうめつ)」
と新しいよいお年をお祈りする行事え～



十日ゑびす

京都のゑびす神社で、1月8日 招福祭(※23:00まで開門)に始まって
・9日 宵ゑびす祭(夜通し開門)・10日 十日ゑびす大祭(夜通し開門)
・11日 のこり福祭(24:00閉門) 12日 撤福祭(22:00閉門)
まで続く吉兆笹を求めて連日にぎわう新年の風物詩やなあ～
「商売繁盛で笹持ってこい!」のかけ声は
威勢がええなあ～



五大力尊仁王会(ごだいりきそんにんのうえ)

毎年2月23日に「五大力さん」と親しまれている「五大力尊仁王会」があります。五大力王の力を授かり、その化身・五大力菩薩によって国の平和や国民の幸福を願う行事やて～
五大力さんに奉納する大鏡餅を抱え上げる大会は面白いし、迫力あるなあ～

